



在福岡タイ王国総領事館ニュースレター

タイの鼓動

APR 2026
VOL5



IN FOCUS

多彩な人生のかたち：
この街で暮らす「タイの仲間たち」



編集長からのごあいさつ

読者の皆さま、こんにちは。

在福岡タイ王国総領事館が発行する季刊誌「タイの鼓動」春号の刊行にあたり、また日本の新年度の始まりに際し、ご挨拶申し上げます。

前号で新年のご挨拶をしてからのこの3か月間は、私たちの仕事や日常生活に影響を及ぼすさまざまな重要な出来事がありました。タイおよび日本での総選挙に加え、3月初旬から現在に至るまで続くイスラエルおよび米国とイランとの戦争の長期化も、その一つに挙げられます。タイでは、アヌティン・チャーンウィーラクーン首相が引き続き率いる新政権が、4月初旬に国会で所信表明演説を行う予定です。首相率いるタイの誇り党は議席数を2倍以上に伸ばしており、これは政治の安定と政策の継続性、とりわけ経済および外交分野における前向きな兆しと言えるでしょう。次号の「タイの鼓動」では、新政権の主な政策について詳しくご紹介したいと考えております。

一方、中東情勢の緊迫化は原油価格の上昇を招き、世界的な経済コストの増大を引き起こしています。同時に、タイと日本を含む各国が生産・供給網のリスクを分散し、この難局を乗り越えるために、これまで以上に協力を深めていく必要性を示しています。

本号では、タイの選挙結果に加え、各国との経済連携協定交渉の進展や国家半導体ロードマップ案の策定など、タイの重要な動きをご紹介します。また、過去3か月間における総領事館の主な活動として、北九州を訪問したタイ保健大臣の来訪対応、Food Style Kyushuへのタイ食品関連企業の参加支援、タイのスタートアップ企業による日本でのネットワーク構築およびビジネスマッチングの支援、福岡での投資促進セミナーの開催、さらに3月29日に幕を閉じた「タイフェスティバルin長崎」の開催支援などを取り上げています。

4月はタイの旧正月「ソングラーン」の季節です。タイ国内はもとより、総領事館が毎年参加させていただいている「別府ソングランフェスティバル」も、別府市の八湯温泉まつりとあわせて4月4日・5日に開催されます。ご関心のある方は、ぜひ足をお運びください。この春の訪れに合わせ、「総領事の食卓BY CHEF SUE」のコラムでは、季節にぴったりの気軽楽しめるメニューをご紹介します。ご家庭での調理はもちろん、お近くのタイ料理店でぜひお楽しみください。

それでは、次号でまたお目にかかれることを楽しみにしております。
それまでに中東情勢が良い方向へと収束していることを願っております。

目次

タイの最新動向.....P2

在福岡タイ王国
総領事館の活動報告.....P3

タイ関連イベント情報.....P8

In FocusP10

タイの暮らしと文化.....P12





タイの最新動向

タイ下院総選挙後、アヌティン首相再任と新内閣発足

タイでは2月8日、下院総選挙（定数500議席）が実施され、投票率は65.28%となりました。開票の結果、アヌティン首相率いるタイ誇り党が第1党となり、最大野党であった国民党、タイ貢献党などが続きました。その後、選挙管理委員会は2月下旬から3月上旬にかけて当選者を正式に承認し、憲法に基づき3月14日に下院が招集されました。3月19日には首相選出投票が行われ、アヌティン氏が293票を獲得して再任され、同氏を中心にタイ貢献党などを含む連立政権の発足が決定しました。3月31日には新内閣の閣僚名簿が国王の承認を受け、正式に発足しました。新内閣では、アヌティン首相が内務大臣の兼務を継続するほか、エクニティ・ニティタナプラパス副首相兼財務相

（経済チームトップ）が続投し、スパジャー・スタンパン商務大臣は新たに副首相を兼務します。また、駐日大使や外務省事務次官を歴任したシーハサク・プアンゲートゲーオ外務大臣も副首相を兼務し、経済・外交分野の体制強化が図られています。国際情勢が大きく変化する中、今後の新政権の政策運営に注目が集まります。所信表明演説は4月7日から9日頃に行われる予定です。



アヌティン・
チャンウィーラクーン
首相



シーハサク・
プアンゲートゲーオ
副首相兼外務大臣

タイ、FTA戦略を加速、ペルーFTA改定交渉が実質合意、EU交渉を最優先



タイ商務省貿易交渉局は2025年12月、タイ・ペルー自由貿易協定（FTA）改定交渉で実質合意に達したと発表しました。残る約30%の物品市場開放やサービス・投資分野のルール整備で前進し、今後は法的精査を経て早期発効を目指します。タイはFTAを通じた市場多角化を推進しており、2024年にはスリランカ、2025年にはEFTAおよびブータンとの協定に署名しています。これらが予定通り本年内に発効すれば、締結数は17に達する見込みです。さらにEUや韓国との交渉、ASEANを通じたカナダとの協議も進展しており、特にEUとのFTAを最優先し、2026年の交渉妥結を目標としています。加えて、ASEANインド物品貿易協定（AITIGA）改定やASEANデジタル経済枠組み（DEFA）交渉も並行して進め、通商ネットワークの高度化を図っています。また、新たなFTAパートナー候補として、湾岸協力会議（GCC）や南部アフリカ関税同盟（SACU）、太平洋同盟、メルコスールを挙げ、検討に向けた調査を実施していると報告しています。

タイ、半導体国家戦略を策定 2050年までに国産チップ実現へ

タイ投資委員会（BOI）は、半導体・先端電子分野の国家戦略「National Semiconductor Roadmap 2050」の草案を策定しました。2026～2050年に2兆5,000億バーツ超の投資誘致と23万人以上の人材育成を通じ、設計から組立・試験（OSAT）、将来的にはウエハ製造までを含む一貫した半導体エコシステムの構築を目指します。重点分野はパワー、センサー、フォトニクス、アナログ、ディスクリートの5分野で、自動車やAI、データセンターなどの需要を見据えています。政府は長期低利融資や補助金などの投資インセンティブに加え、人材育成カリキュラムの整備、産学連携の強化、マイクロエレクトロニクス技術センター（TMEC）など研究拠点の拡充、クラスター形成や電力・水などインフラ整備を推進します。計画は4段階で進められ、2050年までに国産チップの実現を目標としています。



タイ、ワイン持込の納税手続きを簡素化へ 新システムを導入

タイ財務省物品税局は2月15日、ワインを一定量持ち込む入国者向けに、納税手続きを簡素化する新システム「Fast Track」を開発中で、2026年5月に全面導入する見込みと発表しました。まずスワンナプーム空港などで試験導入し、順次全国に拡大します。現行では酒類は1人1リットルまで免税で、それを超える場合は申告と納税が必要ですが、新システムにより手続きの迅速化と利便性向上が期待されています。



在福岡タイ王国総領事館の活動報告

66

地方議会・行政機関との相互交流

福岡県タイ友好議員連盟による意見交歓会

2026年2月4日、ゴーンソン総領事はチーム・タイランドのメンバーらとともに、福岡県タイ友好議員連盟（タイ議連）主催の2026年友好親善意見交換会に出席しました。総領事は挨拶の中で、日タイ関係の発展、とりわけ姉妹都市関係にあるバンコク都と福岡県との継続的な交流の推進において、タイ議連が果たしてきた重要な役割に対し感謝の意を表しました。加えて、「ワンヘルス（One Health）」や「福岡100プロジェクト」など福岡県の先進的な取組を学び、タイ各地での応用につなげていきたいとの意欲を示しました。



タイ保健大臣、産業医科大学と協力について意見交換

2026年2月26日から27日にかけて、タイ王国保健省のパッターナー・プロムパット保健大臣一行は産業医科大学を訪問し、同大学関係者と会談しました。会談ではタイ保健省疾病管理局と産業医科大学との間で「協力センター」を正式に設立するための戦略的協力について意見交換が行われました。本協力は、ASEAN地域における「Beacon of Safety（安全のモデル）」となることを目指すものです。また、同大学との学術交流や人材育成を通じて、タイの労働安全衛生および環境分野の基準向上につなげるとともに、日本企業の重要な投資拠点であるタイにおける労働環境のさらなる強化に寄与することが期待されています。



駐日タイ王国大使、福岡県および佐賀県を訪問

2026年3月2日から6日にかけて、ウィッチュ・ウェチャーチーフ駐日タイ王国大使は陸・海・空の各武官を含む随行団とともに福岡県、佐賀県を訪問しました。滞在中、両県の関係者と幅広い分野において意見交換を行いました。



2026年3月3日
門司税関弓削州税関長との会談



2026年3月3日
北九州市副市長とのワーキングディナー



2026年3月4日
佐賀県の対タイ関係担当者との



2026年3月5日
福岡県国際局幹部とのワーキングランチ



2026年3月6日
福岡市部局各部局関係者とのワーキングランチ

在福岡タイ王国総領事館の活動報告

66

経済分野の交流・先進事例の共有

副総領事、福岡市投資交流推進部を訪問

2026年1月14日、副総領事は福岡市役所の投資交流推進部を訪問し、タイ企業と福岡市との間における新たな経済協力の可能性について意見交換を行いました。会談では貿易および投資分野における連携の可能性、特に環境に配慮したビジネスなどの新たな分野での協力について意見が交わされました。



総領事、福岡県主催の産業観光ツアーに参加



2026年2月5日、総領事は福岡県国際政策課が主催する産業観光ツアーに参加しました。本ツアーは、県における産業観光の推進に向けた取組について、意見交換を行うことを目的として実施され、やまやファクトリーテラスや博多町家ふるさと館を訪問しました。今回の視察を通じて、福岡県が地域の特色や産業の強みを観光と創造的に結び付け、効果的に活用していることが紹介されました。

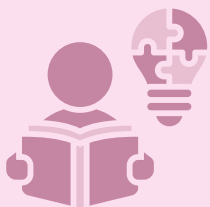
タイのスタートアップ9社が Fukuoka Business Pitch and Networking Event に参加



2026年2月6日、総領事はCIC Fukuokaで開催された「福岡ビジネスピッチ・ネットワーキングイベント」に参加するため来福した、タイのテクノロジー・イノベーション分野のスタートアップ9社を歓迎しました。本イベントは、福岡県、バンコク都およびタイ工業省の協力により開催され、タイ企業が日本の投資家や民間企業に対してビジネスプランを紹介する機会となりました。

参加企業は以下のとおりです。

- 1) **Graffiti Technologies:** ARによる屋内ナビゲーション技術
- 2) **Smile Migraine:** 片頭痛患者向けテレメディシン・デジタルコミュニティアプリ
- 3) **System Stone:** AIを活用した工場自動化システム
- 4) **TIE Smart Solutions:** 建物内エネルギー使用の検知・最適化システム
- 5) **RIFFAI:** AIと衛星技術を活用した建設・再生可能エネルギー分野のソリューション
- 6) **Via Group:** 公共交通における車両の位置・動態管理アプリ
- 7) **3DS Interactive:** 事業者向けマーケティング設計支援アプリ
- 8) **Buzzebees:** 小売・飲食業向けデジタルポイントプラットフォーム
- 9) **Thai Master Dunk:** 新しいパッケージデザインの土産品の製造・販売



各企業の詳細については、添付のQRコードをご参照ください。
<https://shorturl.at/4m8DK>



在福岡タイ王国総領事館の活動報告

66

経済分野の交流・先進事例の共有

総領事、九州経済連合会を訪問

2026年2月13日、総領事は九州経済連合会を訪問し、西日本鉄道株式会社の関係者、九州経済産業局国際事業推進担当部長らと会談しました。会談では将来的に、具体的な協力プロジェクトへの発展を目指し得る分野として、タイにおける路線バス交通システムの発展を通じたタイ・日本の経済協力について意見交換を行いました。



総領事、タイ・ビジネスセミナーで開会挨拶

2026年3月12日、総領事は福岡県のTKPガーデンシティ博多において開催された経済セミナー「共創の拠点としてのタイービジネス機会と円滑な事業展開を支える支援策」において開会挨拶を行いました。本セミナーは、タイ王国大使館経済・投資事務所(BOI東京事務所)が主催し、在福岡タイ王国総領事館、九州経済国際化推進機構 およびジェトロ九州・沖縄地域本部との共催により開催されました。タイを戦略的な投資拠点および日タイ企業の共創の拠点として紹介することを目的としています。当日は、タイ政府による最新の支援措置に関する講演のほか、SIAM RIX MANUFACTURING CO., LTD. の経営者によるタイでのビジネス経験の紹介も行われました。



「ピチット100プロジェクト (Phichit 100 Project)」

— 「Fukuoka 100」の構想を統合した高齢社会エコシステムのモデル構築 —



2026年3月14日から18日にかけて、総領事館はタイ北部に位置するピチット県とシリラート病院医学部と連携し、同県を包括的な高齢者向けエコシステム構築の「サンドボックス」として推進する「ピチット100」プロジェクトを実施しました。本プロジェクトは、医療・保健、社会、環境といった多方面から高齢者ケア体制の構築を目指し、産学官のすべての関係主体が参画する取り組みです。また、「福岡100」プロジェクトの推進を牽引する小川全夫名誉教授を招き、事業の基盤づくりにご協力いただきました。これにより、ピチット県をタイ国内における「高齢者に優しいまちづくり」の先駆的モデルとして確立し、その成果を他地域へ持続可能に展開していくことを目指しています。



在福岡タイ王国総領事館の活動報告

06

06

社会・文化・教育分野の交流

タイ青少年選手によるアビスパ福岡でのサッカー研修



2026年1月16日、総領事は、タイ・サッカー発展財団理事長、「GLO Cup」大会ディレクター、ならびに選ばれたタイ人青少年選手「GLO Star」6名による表敬訪問を受けました。一行は、アビスパ福岡における6ヶ月間のサッカー研修に参加するため来日しました。タイの青少年選手をこのような形で日本へ派遣するのは、同国初の試みであり、今回の第1期生の歩みは、両国間のスポーツ交流における歴史的なマイルストーンとなります。



九州国立博物館における「MOA美術館児童作品展」への出席

2026年1月18日、総領事夫妻は、福岡県太宰府市の九州国立博物館にて開催された「第9回 MOA美術館児童作品展」の表彰式に出席いたしました。本年は、タイの青少年が制作した11の芸術作品が入選を果たし、同展覧会にて堂々と展示される運びとなりました。当館は、芸術を通じた次世代の豊かな国際交流を今後も支援してまいります。



キングモンクット工科大学トンブリー校 (KMUTT) 一行による表敬訪問



2026年2月6日、総領事は、スレーン・タパナグーン氏をはじめとするキングモンクット工科大学トンブリー校 (KMUTT) の「王室プロジェクト財団および王室開発計画支援促進センター」の研究者一行を歓迎しました。会談では、タイ国内の地域コミュニティにおける民芸品や手工芸品の品質向上、ならびにそれらの販路拡大を目的としたオンラインプラットフォームの構築支援について、具体的な協働の方向性を協議しました。

福岡県とバンコク都との次世代人材育成・交流事業 (SYEP)

2026年2月9日、総領事は、バンコク都副事務次官、ならびに2026年度「福岡県とバンコク都との次世代人材育成・交流事業 (SYEP)」に参加するタイと日本の大学生計12名 (各6名) の表敬訪問を受けました。本プログラムは、バンコク都と福岡県の連携事業の一環であり、両国の若者が協働して地域社会の課題解決に向けたアイデアを創出し、住民の生活の質 (QOL) 向上に資するビジネスモデルへと昇華させることを目的としています。



在福岡タイ王国総領事館の活動報告

〇〇 社会・文化・教育分野の交流

「タイ・フェスティバル in 長崎」の開催



2026年3月29日、長崎市の三角広場にて「タイ・フェスティバル in 長崎」の開会式が執り行われ、総領事が、長崎市をはじめとする日本側関係者とともに参列いたしました。「長崎のタイ好き、集まれ」をメインテーマに掲げた本催しは、九州地方とタイ王国との地域間交流をより一層深めるとともに、国際都市・長崎のプレゼンス向上および観光産業の活性化を図ることを目的に盛大に開催されました。

〇〇 領事業務

在福岡タイ王国総領事館による在外投票の実施

2026年2月8日に実施されたタイ王国の総選挙および憲法改正に関する国民投票に際し、在福岡タイ王国総領事館は、九州・沖縄・中国地方に居住するタイ国民を対象に在外投票を実施しました。投票は2025年12月20日から2026年1月5日まで行われ、登録有権者は合計1,189人でした。



2026年1月31日、在福岡タイ王国総領事は、福岡市の総領事公邸において、シリキット王太后陛下御逝去百日に際し、追善法要を執り行いました。



タイ関連イベント情報

「別府ソングランフェスティバル2026」 ～湯のまち別府で楽しむ、タイ式水かけ祭り～

開催期間: 2026年4月4日(土)～5日(日)

会場: トキハ別府店会場 (大分県別府市北浜2-9-1)

詳細: www.instagram.com/beppu_songkran_festival



「第112回別府八湯温泉まつり」の注目イベントとして、今年も「別府ソングランフェスティバル」が開催されます。会場では、タイの旧正月を祝う伝統行事「ソングラン(水かけ祭り)」の雰囲気とともに、本場のタイ料理や文化紹介を通じて、タイと日本の豊かな伝統を一度に体感できる貴重な機会です。そしてフィナーレを飾るのは、別府名物「湯・ぶっかけまつり」豪快に温泉をかけ合う、別府ならではのスタイルでタイ現地のソングランに勝るとも劣らない水かけの熱気を存分に味わっていただけます。当日は周辺エリアでも多彩な催しが予定されています。春の訪れとともに、心躍るタイと別府の共演をぜひ現地でお楽しみください。



タイ・ビジネスミッション 2026参加者募集 「脱炭素・BCG」をテーマにタイの最新 ビジネス環境を体感

開催期間: 2026年5月12日(火)～16日(土)

会場: タイ (バンコク、ラヨーン県ほかタイ国内視察訪問先)



タイ投資委員会(BOI)大阪事務所が主催する本ミッションでは、タイ政府が推進する国家戦略「BCG経済モデル」をテーマに、現地の最新動向やビジネス環境をダイレクトに体感いただけます。工業団地や関連施設の視察、BOIとの意見交換、現地企業との商談・交流を通じ、新たなビジネスの可能性を多角的に探る絶好の機会です。ぜひご参加ください。

詳細・お申込み: <https://shorturl.at/AOaqx>
【申込締切: 2026年4月17日(金) 必着】



THAILAND GOLF EXPO 2026 & THAILAND DIVE EXPO 2026 世界水準のスポーツ・トラベル&ライフスタイル展示会

開催期間: 2026年5月21日(木)～24日(日)

会場: クイーンシリキットナショナルコンベンションセンター(QSNCC) (バンコク・タイ)

公式サイト: <https://www.thailandgolfexpo.com/>
<https://www.thailanddiveexpo.com/>



ゴルフとダイビングをテーマにした2つの国際展示会が、同時開催されます。タイ各地の主要なゴルフ場、ダイビングスポット、ホテルが一堂に会し、近年日本人旅行者の間でも関心が高まっているサステナブルな旅のトレンドを紹介いたします。タイ観光の新たな魅力と、会場限定の特別プランを一度に体験できる絶好の機会です。

福岡在住タイ人水彩画家 PANITA AOKI (パニタ・アオキ) 水彩画展

福岡を拠点に活動するタイ人画家、PANITA AOKI氏による水彩画展が開催されます。自然や日常の中で心に残る記憶や光、色彩から得た着想を、水彩を通して表現した作品をぜひ会場でご鑑賞ください。

■ 第32回アジア美術家連盟日本委員会展

開催期間: 2026年4月14日(火)～19日(日)

会場: 福岡市美術館 ギャラリーABCDE

■ PANITA AOKI 水彩画展「Afterglow - 記憶の光 -」

開催期間: 2026年6月16日(火)～21日(日)

会場: 福岡市美術館 ギャラリーA



アーティスト情報: 作品や最新情報は、公式Instagram (@panita_aoki) にてご覧いただけます。



THAILAND MICE X-CHANGE (TMX) 2026 ASEANのビジネスとイノベーションを繋ぐ架け橋



開催期間: 2025年4月29日(水)～30日(木)

会場: クイーンシリキットナショナルコンベンションセンター(QSNCC) (バンコク・タイ)

公式サイト: <https://tmxexpo.com/>

ASEANのビジネスとイノベーションを繋ぐMICE業界の展示会。最新技術やサステナビリティをテーマにした展示を通じて、ASEAN地域のビジネス拠点としてのタイを発信。新たなビジネスパートナーシップの構築やグローバルな事業展開を目指す方々にとって有益な機会です。

THAIFEX-ANUGA ASIA 2026 アジアを代表する飲食業界の総合展示会



開催期間: 2026年5月26日(火)～30日(土)

会場: インパクト・ムアントンターニー (バンコク・タイ)

公式サイト: <https://thaifex-anuga.com/>

アジアを代表する飲食業界の展示会。最新のフードテックやサステナビリティのトレンド、そして世界中のプレミアム商材が一堂に会します。会場内にはジェトロ(JETRO)の支援による

「ジャパン・パビリオン」も設置され、日本企業の優れた技術や革新的な製品がASEAN市場へ発信されます。食の未来に触れるとともに、国際的なビジネスネットワーク構築が期待できる貴重な機会です。

タイ関連イベント情報



「タイフェスティバル2026」

～5月はタイMONTH！日本各地で出会うタイの魅力～



5月はタイMonth！タイ王国大使館およびタイ王国総領事館の協力のもと、5月には日本各地でさまざまなタイ関連イベントが開催されます。各会場では、多彩なタイ料理をはじめ、音楽、アーティスト、カルチャー、タイ製品などを通して、タイの魅力に触れることができます。今年も各地で盛り上がるタイフェスティバル。ぜひお近くの会場をチェックして、足を運んでみてください。最新情報や詳細については、各地の公式サイトやSNSをご覧ください。



5月
9-10
(土)・(日)

第26回タイフェスティバル東京

会場: 代々木公園イベント会場
主催: 在京タイ王国大使館
詳細: www.thaifestival.jp/,
www.facebook.com/thaifestival.jp



5月
30-31
(土)・(日)

第13回タイフェスティバルin仙台2026

会場: 勾当台公園市民広場
主催: タイフェスティバルin仙台実行委員会
詳細: thaifestival-sendai.com/,
www.instagram.com/thaifes.sendai/



5月
16-17
(土)・(日)

タイフェスティバルin名古屋2026

会場: エディオン久屋広場
(久屋大通公園久屋広場・エンゼル広場)
主催: タイフェスティバルin名古屋実行委員会
詳細: www.thaifestival-nagoya.jp/,
www.facebook.com/thaifesnagoya/



5月
30-31
(土)・(日)

Amazing Thai Fest 2026

会場: 天神中央公園貴賓館前エリア
主催: タイ国政府観光庁 福岡事務所
詳細: <https://www.thailandtravel.or.jp/>



5月
30-31
(土)・(日)

タイフェスティバル大阪・関西2026

会場: 長居公園・自由広場
主催: 在大阪タイ王国総領事館
詳細: www.facebook.com/ThaifestivalOsakaOfficial

「タイの鼓動」は創刊から2年目を迎えました。新たな始まりや出会いの季節である4月に合わせ、本号より【In Focus】のコーナーでは、当館の管轄地域である九州・沖縄・中国地方に在住し、それぞれの道で挑戦を続けるタイ人の方々を随時ご紹介します。さまざまな分野で活躍する、多才なタイ人の皆さんの歩みや想いを通じて読者の皆さまに新たな発見や前向きなエネルギーをお届けできれば幸いです。

記念すべき初回となる今回は、二人のタイ人をご紹介します。一人目は、日本政府奨学生として博士課程でロボット工学の研究に励むタイ人留学生。もう一人は、日本で家庭を築きながら水彩画家として創作活動を続け、個展の開催を実現されたタイ人女性です。本コラムが、日本で活躍するタイ人の世界への扉をそっと開き、両国の人々の相互理解と絆がより深く、より身近なものとなることを心より願っております。

はじめまして。僕は現在、九州工業大学で、ロボット工学を専攻しているタイ出身の博士課程学生です。

僕とテクノロジーとの出会いは、中学時代にさかのぼります。バンコクにある中高一貫のヨーティンブナ校（英語プログラム）に在学中、中学1年生から高校卒業までロボットクラブに所属しものづくりに打ち込んできました。当時は楽しさに加え、多くのロボット競技会に挑戦する機会をいただき、国際大会優勝などの成果を収めることができました。様々なロボット競技会で得た賞金や奨学金は家計の経済的負担を減らすとともに、僕がこの分野に本気で取り組む大きな原動力となりました。その後、キングモンクット工科大学北バンコク校（KMUTNB）工学部ロボティクス工学・自動化システム学科（Robotics Engineering and Automation System: 英語プログラム）に進学し、特待生として学部4年間にわたり奨学金を受けながら学びました。

学部卒業を目前に控えた頃、進学先をどこにするかという大きな転機を迎えました。ハンガリー、ドイツ、アメリカ、イギリスなど多くの選択肢がありましたが、最終的に日本を選びました。理由は明確で、タイの指導教員の多くが九州工業大学の卒業生であったことから、教育の質に対する信頼が高かったこと、そして研究面で既存のネットワークを活かしながら、一からやり直すことなく研究を発展させられると考えたからです。

日本政府文部科学省国費外国人留学生奨学金（MEXT・大学推薦）に採用していただき、2023年9月から修士課程、さらに博士課程へと継続して日本で学生生活を送っています。気がつけば、日本での生活もすでに3年目に入りました。異国での生活は僕自身も大きく成長させていただく機会となたと感じています。離れて暮らす家族からの励ましは、僕がいただいた機会の価値を理解し、最善を尽くすための大きな支えとなっています。また、日本語の基礎は少なかつたものの、日常生活に支障のないレベルまでに努力を重ねたことで、語学の壁を乗り越え、研究に集中できる環境を整えることができました。



プロフィール

名前：ジラパット ジラボヴォンポンサ
(Jiraphatr Jiraborvornpongsa)
所属：九州工業大学 博士課程（1年）
日本滞在歴：約2年半（2023年9月来日、
現在3年目）

現在は、羽ばたきロボット（Flapping-Wing Robot）の研究に取り組み、自然界でみられるようなしなやかな飛行を再現するロボット制御の実現を目指しています。創造性を尊重する日本の研究環境は、僕にとって非常に恵まれたものだと感じています。

将来は、研究者または大学教員になることです。タイに戻って母国の発展に貢献するか、研究設備の整った日本で活動を続けるか、現時点では検討中ですが、どこで働くとしても、これまで培ってきたロボット工学の知識を活かし、社会に貢献できる持続可能なイノベーションを生み出したいという想いは変わりません。





はじめまして。
青木 パニター（旧姓：スースワン）、
ニックネームはパットです。
日本在住14年目、タイ出身の水彩画家です。

日本に来たきっかけ

タイのキングモンクット工科大学 (KMITL) 建築学部を卒業後、神奈川県にある東海大学で別科日本語研修課程を1年間学び、日常会話レベルまで習得しました。その後、タイに帰国し、バンコクにある Honda R&D Southeast Asia 社でデザイナーとして勤務しました。日本人と結婚して、再び来日し、最初は東京、その後、夫の転勤で福岡へ移住しました。現在は小学生の息子が一人います。

日本で水彩画家を始めたきっかけ

幼い頃から絵を描くことが好きで、専門的に美術を学んだことはありませんが、趣味として絵を描き続けてきました。異国での生活は、言語や文化の違いなど、多くの挑戦があり、その中で「自分は何者なのか」「自分にできることは何か」と自分に質問する日々が続きました。子どもが幼稚園の年長さんの時に時間ができ、2022年に春崎幹太先生の水彩画教室に通い始めました。自宅でも練習を続け、完成した作品をSNSに投稿していたところ、ご縁があり2025年に初の個展を開催することとなりました。その後、先生に技術と画家になる情熱を評価していただき、九州の水彩画家とのグループ展にお声がけいただいたことで、水彩画家として本格的に活動を始めようとなりました。現在は福岡・東京を中心に、複数回の展示を行っています。同じ興味を持つ人々のコミュニティに入ること、新たなご縁やチャンスが広がっていくと感じています。



作品のコンセプト

作品の多くは、実際に訪れて心を動かされた風景や花をモチーフにしています。特に自然の中で感じた光と色彩を大切に、水彩ならではの表現を通して、紙の上に想像の世界を広げています。作品をご覧になる方が、穏やかな気持ちになり、心が少しでも癒されることを目指しています。

水彩画から学んだこと

水彩画は非常にコントロールが難しい画材です。水の性質を理解するまでには多くの練習が必要で、失敗したら修正が難しく、最初から描き直すこともあります。しかし、水彩は「不確かさの中から生まれる美しさ」を教えてくださいました。思い通りにならないことを受け入れ、コントロールできないことを自然に任せて手放すことで、予想もしなかった美しさに出会える。それは制作だけでなく、人生そのものにも通じる大切な学びだと感じています。

今後の目標

アジア美術家連盟のメンバーとして活動しており、2026年4月14日～19日に福岡市美術館で『第32回アジア美術家連盟日本委員会展』に出展予定です。そのほかにも、6月にまた銀座と福岡市美術館で個展をする予定です。



作品や展示情報は、以下のInstagramより
ご覧いただけます。
Instagram：@panita_aoki



タイの暮らしと文化

第5回 総領事の食卓から BY CHEF SUE

日本でもすっかり馴染みのある「ガパオライス」。タイでは「パットガパオ」と呼ばれ、タイの人々の間でも「何を食べるか迷ったらパットガパオ」と言われるほど定番のソウルフードです。今号でご紹介するのは、数ある「パットガパオ」の中でも特に人気の高い「パットガパオ・ムーサップ (ผักเป็ดหมู) = 豚ひき肉のガパオ炒め」です。今回は日本の春野菜を使って季節を楽しめるレシピをご紹介します。

香り高いガパオの葉に、にんにく、生の唐辛子、乾燥唐辛子の刺激的な辛さが加わり、ひと口食べるだけで食欲がぐっと高まる一品です。味付けはオイスターソースをベースに、ナンプラーの香りと砂糖のやさしい甘みが加わり、くせになる絶妙なバランスに仕上がっています。

熱々のご飯にかけ、タイ風の目玉焼き (ไข่จิ้ม / カイダーオ) を添えるのが王道のスタイルです。特にカイダーオの外側のカリッとした香ばしさと、卵の黄身のまろやかさは、「パットガパオ」と相性抜群です。辛さをほどよく和らげ、最後まで飽きずに楽しめます。

ガパオライス



シェフ・スーのレシピ

豚ひき肉のガパオ炒め 「パットガパオ・ムーサップ」

材料 (2-3人前)

- 豚ひき肉 200g
- にんにく 20g
- 生の唐辛子 1~3本 (お好みの辛さに量を調整可)
- 乾燥唐辛子 1~3本 (お好みの辛さに量を調整可)
- ガパオ (ホーリーバジル) の葉 20g
※なければホーラパー (タイバジル) の葉で代用可
- オイスターソース 大さじ2
- ナンプラー 大さじ1/2
- 砂糖 小さじ1
- サラダ油 大さじ2
- お好みの季節の野菜 (新玉ねぎ、タケノコなど)
- 適量

タイ風の目玉焼き「カイダーオ」

材料

- 油 約200ml
- 卵 2-3個



作り方「パットガパオ・ムーサップ」

- 生の唐辛子、乾燥唐辛子、にんにくをすり鉢で粗くつぶす (またはミキサーで軽く砕く)。
- フライパンに油を入れて中火で熱し、1.の にんにくと唐辛子を炒めて香りを立たせる。
- 豚ひき肉を加えて炒め合わせ、火が通るまでしっかり炒める。
- オイスターソース、ナンプラー、砂糖を加え、全体によく絡める。味を見ながら「辛味・塩味・甘み少々」のバランスを整える。
- その後、季節の野菜を加えて火が通るまで炒め、最後にガパオの葉を入れてさっと混ぜ合わせたら火を止めます。
- お皿に盛った白ご飯の上にかけて、別に用意した目玉焼きを添えて完成。

作り方「カイダーオ」

- まず深めのフライパンに油 (約200ml) を入れて十分に熱し、卵を割り入れます。
- まわりがカリカリと、こんがりきつね色になるまで揚げ焼きにしてください。
※黄身までしっかり火を通したい場合は、途中で卵を裏返し、両面を焼いて全体をカリッと仕上げてください。

ポイント

- 季節の野菜として、新玉ねぎやスナップえんどう、タケノコなど旬の春野菜を加えると、食感が増えてより一層美味しく仕上がります。また、「パットガパオ」は豚肉だけでなく、牛肉・鶏肉・シーフードなど、ひき肉でもこま切れでも、さまざまな食材で美味しく楽しめます。
- パットガパオの味付けは、唐辛子の辛さが特徴で、塩味がやや強めで、甘みは少しの味付けが基本です。辛いものが苦手な方は、唐辛子の量を減らして調整してください。



在福岡タイ王国総領事公邸の料理人「シェフ・スー」は、在外公館での経験と料理の腕を買われゴーソン総領事の福岡着任を機に2024年5月に来福しました。大学在学中からバンコクの5つ星ホテルでフルーツカービングの実演担当やバンコクの日本人向けカルチャースクールのタイ料理講師等を経て卒業後は世界各国のタイ王国大使館、総領事館の料理人として20年近く腕をふるってきました。

タイ文化の豆知識

サワディーカ！皆さま、
いかがお過ごしでしょうか。



日本では、4月は新たな始まりの季節とされています。春の訪れとともに桜やさまざまな草花が咲き誇り、新学期の始まりや新卒者の社会人生活のスタート、さらには「新年度」の開始を迎える時期です。実はタイにおいても、伝統的な考え方では新年は4月とされています。それが4月13日の「ソクラーン（タイ正月）」であり、この点については昨年4月号の本コラムでもご紹介しました（時が経つのは本当に早いですね！）。今月号では、タイの暦や会計年度の考え方について、皆さまと一緒に見ていきたいと思います。

現在、タイでは国際的に用いられている暦と同じく、1月1日から12月31日までを1年とする暦を使用しています。異なる点として、1911年（仏暦2454年）から、年の表記として「仏暦」を公式に採用しています。仏暦は仏陀の入滅から1年後を仏暦1年とし、西暦よりも543年遡るため、今年、西暦2026年はタイでは仏暦2569年に当たります。

一方、タイの行政制度における「年度」は、毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終了します（例えば、仏暦2569年度は、仏暦2568年10月1日から仏暦2569年9月30日まで）実は、タイ政府ではかつて、伝統的なタイ正月に合わせて、会計年度を4月に開始していた時期もありました。その後、気候や人々の生活様式との関係を踏まえ、1961年10月1日（仏暦2504年）以降、年度の開始時期は10月に変更され今に至ります。

タイでは4月は祝日が多く、各行政機関が実際に予算を受け取るのは、5月から6月頃になることが多かったため、この時期はすでに雨季に入っており、インフラ整備や各種建設事業が進めにくい要因となっていました。一方、10月は乾季の始まりに近く、12月から翌年6月頃まで比較的天候が安定するため、道路や橋梁の建設に適した時期とされています。さらに、タイは農業を経済の重要な基盤のひとつとする国であり、収穫期は例年、年末から年初にかけて訪れます。こうした背景から、会計年度を10月に開始することで、政府は税収の見通しを立てやすくなり、より精度の高い予算編成が可能となっています。

民間企業においては、法人所得税の算定に用いられる「会計期間」は12か月とされており、開始日および終了日は任意に設定することができます。多くの企業が1月から12月までの暦年を会計期間として採用しています。

日本の「春の始まり」とはまた異なるタイ独自の暦にまつわる「始まり」。この仕組みを知ることで、タイのニュースに触れる際にも、タイの社会や経済の動きがより身近に感じられるのではないのでしょうか。



「タイの暦と年度」に関するタイ語

"ปฏิทิน" (パティティン)

意味：「カレンダー／暦」

- พ.ศ. (ポー・ソー)：仏暦 ※タイで公式に使われる年号。
- ค.ศ. (コー・ソー)：西暦 ※仏暦と併用されています。

"ปีงบประมาณ" (ピー・ゴップブラマーン)

タイの行政制度において用いられる年度区分、タイ政府の会計年度は毎年10月1日から翌年9月30日までとされ、名称には翌年の年が用いられます。

意味：会計年度／予算年度。

"รอบระยะเวลาบัญชี" (ローブ・ラヤ・ウェラー・バンチャー)

法人税の計算に用いられる会計上の期間を指し、原則として12か月間とされています。開始日および終了日は任意に設定できますが、継続して使用する必要があります。

意味：会計期間／事業年度。

